

あいち病害虫情報 最新情報

令和5年8月18日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

名古屋地方気象台8月17日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、降水量と日照時間はほぼ平年並の見込みです。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、適期防除を心がけましょう。作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理に留意しましょう。

イネ白葉枯病

西三河地方の一部地域でイネ白葉枯病の発生を確認しています。本病は、大雨や強風によって発生が助長されるため、台風7号の影響により発生が拡大しているおそれがあります。今後も台風等による風雨が懸念されますので、浸冠水しやすい水田では、用排水路の整備を行いましょ。

今年、白葉枯病が発生したほ場では、次作へ向けた対策を行いましょ。一次伝染源となるサヤヌカグサなどイネ科畦畔雑草の除草、稲刈り後の被害ワラの除去、次年度の育苗時に箱施薬による防除を行いましょ。

イネいもち病

8月上旬の巡回調査において、葉いもちの発生量は多く、穂いもちの発生量はやや多い状況でした。葉いもちが上位葉で発生している場合、穂いもちに移行するおそれがありますので、適宜防除を行いましょ。

トビイロウンカ

8月上旬に実施した巡回調査において、トビイロウンカの発生は確認されませんでした。また、予察灯においても誘殺は確認されていません。

斑点米カメムシ類

8月上旬の巡回調査における水田内のすくい取り調査では、過去10年間で2番目に多い状況です。特に、種類別ではイネカメムシが過去10年間で最も多い状況です。

これから出穂期を迎えるほ場では、畦畔やほ場内を観察するとともに、発生状況に応じて適宜防除しましょ。防除対策については、本日発表の「斑点米カメムシ類情報第3号（イネカメムシ）」及び8月1日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考にしてください。

ダイズのシロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ

シロイチモジヨトウについては、8月上旬調査で幼虫の寄生が確認されています。また、フェロモントラップにおける誘殺数は多い状況です。本種は近年増加傾向のため、発生状況に注意が必要です。幼虫の発生を確認したら速やかに防除しましょ。防除対策については、本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第8号」を参考にしてください。

オオタバコガについては、8月上旬調査における幼虫の寄生株率は平年並の状況です。フェロモントラップにおける誘殺数は西尾市で多い状況ですが、その他の地域ではおおむね平年並です。オオタバコガは新葉を中心に食害するため、新葉が盛んに展開する開花期

までの防除が重要です。は種時期が遅い作型は特に注意しましょう。

ハスモンヨトウについては、8月上旬調査における幼虫の寄生株率はやや多い状況です。また、既に白変葉を確認しています。フェロモントラップにおける誘殺数は、安城市で多く、長久手市と西尾市でやや多く、その他の地域では平年並からやや少ない状況です。今後、高温が予想されることから、発生量が増えるおそれがありますので、ほ場内を観察し、幼虫の発生や白変葉を確認したら速やかに防除をしましょう。防除対策については、本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号（ダイズ、キャベツ）」を参考にしてください。

果樹の病害

台風7号の通過による強風を伴う雨があったため、果樹の病気が多発する可能性があります。特にカキ炭疽病は、前年秋の発病果率がやや高かったことから注意が必要です。ほ場の発生状況に注意し、防除を行きましょう。

その他、カンキツかいよう病、モモせん孔細菌病、ナシ黒星病、ブドウべと病、カキうどんこ病なども風雨で感染します。薬剤防除を実施する場合は、収穫期の品目では収穫前日数に注意しましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

7月下旬の巡回調査において、ブドウべと病の発病葉率は平年並ですが、発病葉率が高いほ場が確認されています。そのため、薬剤防除や発病葉をほ場外に持ち出すなど防除を徹底しましょう。

果樹の害虫

ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺数は、長久手市（モモ、ナシほ場）で多く、豊橋市（ナシほ場）でやや多い状況です。また、西尾市（ナシほ場）では8月第2半旬に急増しているため、今後の発生状況に注意が必要です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなります。収穫前日数に注意して薬剤防除をしましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップによる誘殺数は全体的にやや少ない状況です。また、果樹カメムシ類の予察灯による誘殺数についても、全体的にやや少ない状況です。7月下旬に実施したヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘（吸汁した跡）数による離脱時期の予測によれば、今後、新世代成虫がヒノキ林から離脱し、成虫が果樹園へ飛来すると考えられます。県内各地におけるヒノキ林からの離脱時期の予測等は、8月1日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参照してください。また、スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがあるので注意してください。

カンキツほ場に設置したチャノキイロアザミウマの粘着トラップによる7月以降の誘殺数は、蒲郡市で多く、南知多町でやや多い状況です。本虫の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。アメダス観測地点において有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日（表）を参考に防除を行きましょう。

表 チャノキイロアザミウマの成虫発生ピーク予測日（8月18日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第5世代	8/7	8/7	8/2	8/3	8/8	8/8	8/6	8/6	8/11	8/5	第3世代	7/28
第6世代	8/24	8/25	8/19	8/20	8/26	8/25	8/23	8/23	8/29	8/22	第4世代	8/18
第7世代	9/11	9/13	9/5	9/6	9/14	9/13	9/10	9/10	9/18	9/10	第5世代	9/10

各地のアメダス平均気温から予測。8月17日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、豊橋市、田原市のキャベツほ場、豊橋市のハクサイほ場で多い状況です。ほ場や育苗ほでの発生に注意しましょう。詳細は本日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第8号」を参考にしてください。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、豊橋市のキャベツほ場、稲沢市、豊川市のキクほ場でやや多い状況です。ほ場や育苗ほをよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並です。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、碧南市のニンジンほ場、豊橋市のハクサイほ場、南知多町のキャベツほ場で多い状況です。ほ場周辺のサトイモやダイズほ場の被害状況を参考に、ほ場や育苗ほでの発生に注意して適宜防除しましょう。本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号（ダイズ、キャベツ）」も参考にしてください。

ハイマダラノメイガは、発芽、定植直後に加害されると被害が大きくなります。は種から定植時に薬剤を処理するなどして、初期被害を防ぎましょう。

育苗ほでは防虫ネットを設置してチョウ目害虫の飛来を防ぎましょう。

イチゴ炭疽病に注意！

7月下旬の巡回調査でイチゴ炭疽病の発生量は多い状況でした。今後も気温が高いと予想されており、注意が必要です。発生を確認したら、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は病徴が無くても同様に処分しましょう。親株で発生があった場合は、その親株から発生しているランナー、子株も処分しましょう。8月1日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第7号」も参考にしてください。

イチゴのハダニ類

7月下旬の巡回調査でハダニ類の発生量が多い育苗ほ場があります。本ほでのハダニ類を抑えるには、育苗段階での防除を徹底することが重要です。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないように、定植直前には必ず防除を実施しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

トマトのコナジラミ類

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミの本ほへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、苗でのコナジラミの施設持ち込みに注意して、早期防除に努めましょう。

本日発表のコナジラミ情報第1号（トマト）も参考にしてください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ウェブページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820